

ねじりはちまき

暑中お見舞い申し上げます

日頃、皆様よりご鞭撻を頂き、誠に有難く厚く御礼を申し上げますと共に、今後共宜しくお願いいたします。

7月1日は山開きと半夏生がいっしょですね。
8日小暑、18日海の日、19日土用入り、22日大暑です。
30日土用の丑の日で、「う」の字の付く物を食べる日です。
夏の料理で夏を感じさせるものといえば「冷奴」。
生醤油、けずりこ、生姜、シソ、ネギ、七味、と薬味はどこにでもあるものばかりです。
冷奴は、「ひゃっこい」が訛ったものだそうです。
お酒に冷奴は、食べ合わせのひとつですね。

いよいよ激しい暑さに向います。
どうぞ、ご自愛の程お祈りいたします。

幸田 常一

(°))<<

(°))<<

(°))<<

(°))<<



お世話になっております。引き続き、本宮市の現場で事務所の建設工事をお世話になっていて、こちらはお盆の頃完成の予定です。
また、郡山市の現場では住宅の建設工事を始めさせていただきました。

「**タカダ ウメ**」

私の家庭菜園には2本の高田梅が植えてあります。この梅の木は、家内の実兄が生前に植えて下さったものです。植えてから20数年が経ち、大きな木に(目とおり30cm程)成長しており、樹勢も盛んです。

植えて頂くきっかけは、家庭菜園の面積が広過ぎるので(120坪程の広さ)、将来耕作するのに苦勞する心配があったこと、それよりも大きな理由は、私が高田梅が大好きだったことが(大きな梅の実のかりかりと触感の良い梅漬、大きな梅の実の梅焼酎漬の食感・味は格別です。)、お願いの理由だったと記憶しております。

さて、梅の木の毎年の手入れが大変です。先ず秋には落葉したころ、枝の剪定から始まります。年が明けて2月になると、カイガラムシを退治するための消毒。次いで、梅の花が散り終わる5月初めに(高田梅の開花時期は他の梅より遅い)、梅の実に付く害虫を駆除するための消毒をした後、6月下旬になり収穫の季節を迎えることとなります。

今年は高田梅の本場の会津では、開花時期に遅霜に遭い、壊滅的な打撃を受けてしまい、品不足になっているとのこと。我が家の高田梅は、天候に恵まれて大豊作。過日収穫しましたが、コンテナに一杯になる程の収穫。私1人では車まで運ぶことが出来ず、家内に手伝ってもらう程の収穫量でした。こんな大量に収穫出来たのは、高田梅を植えて以来初めてのことです。今は亡き兄に、心から感謝しなければと考えております。

さて、収穫した後の高田梅の処理は家内の担当です。大半の梅は、その日のうちに夜半まで費やして塩で漬け、梅漬けにされ(後日、赤紫蘇を入れて漬け直し)、私のお茶請けになります。私は毎朝緑茶を頂きますが、その際梅漬けを茶請けにしてありますが、この朝茶と梅漬けが、歳の割には元気で生活出来る要因の一つではないかと、密かに考えております。一部は焼酎と氷砂糖で漬け込み、梅焼酎に生まれ変わります。この梅焼酎の味も格別です。実に味わい深いものです。今年は豊作のために、一部は親戚や知り合いに配り、有難いことに大変感謝されております。

この様にして、今年の高田梅の収穫は終わりましたが、本場の会津で高田梅が不作であるのに、梅に関して全くの素人である我が家の梅が大豊作とは、全く皮肉な結果となりました。農業とはなんと難しい産業であることかを、改めて感じた次第です。

今年も梅漬けや梅焼酎の味を楽しみ、未永く高田梅の栽培が出来ることを心から念願するこの頃です。

自然と人間の関係は

これまでも何回か触れたことがあるが、改めて「自然と人間」の関係について感ずるところを述べてみたい。

昨年末、国際連合の COP21 において「地球温暖化抑止」の新たな枠組みについて発展途上国を含めて全体（196国・地域）合意がなされ、「パリ協定」が採択された。これは史上初で、歴史的なできごとである。地球温暖化について「責任のなすり合い」に終わらせず、「温室効果ガスの排出削減」が今世紀における喫緊のテーマであるとの共通認識のもとに、全加盟国がそれぞれの立場で努力することで合意がなされた意義は大きい。これはこれですばらしいことであり、各国がそれぞれの責任を果たして欲しいと念願する。ただ COP21 のことで、どうしても気になることがある。つまり、「温室効果ガスの削減」では、どうしてもエネルギー源やエネルギー効率化が焦点となる。従って、地球上で現在都市化が進行（世界人口の半分が都市部に集中）する中で、「森林等の自然」が破壊されている状況をどうするかは取り上げられていない。ご承知のように、森林の存在は地球温暖化と関係する。光合成によって二酸化炭素を吸収し、酸素を供給してくれる。人間の生存にとって不可欠な営みをしてくれると同時に地球温暖化の抑止にも深く関わっている。そこで、現に一部植林活動（防災用も含め）も進められている。だが、森林面積は全体として減少している。「人間は自然とともにあることによって生存が可能である」という認識があるかどうか問われる。つまり、地球温暖化の根底には森林を始め「自然」に対する「人間」のおごりがあるように思えてならない。自然（鉱物を含め）は人間のために存在するとして「資源として自然から奪う」ことを専らしてきたのではないか。それがもう限界に近づきつつあるのが現状。地球全体として自然循環のバランスを崩して、温暖化が進行している。何も縄文時代に戻れというのではないが、世界的に人口増、都市化が進行する中で、もっと「真摯に自然と向き合って共に生きる」という姿勢が求められていると思われるが、いかがだろうか。そこで、小生の知りうる森づくり（緑化）の3つの取り組み事例を紹介し、考えてみたい。

先ず東京の明治神宮の鎮守の森（代々木の杜）のことである。ご承知の通り、明治神宮は明治天皇と昭憲皇太后をお祀りするため大正9年に創建された。初詣の参拝者数が日本一であるとのこと。その神宮の森は今でこそ鬱蒼とした自然林の様相を呈しているが、創建当時はそうではなかった。代々木の杜の一角は南豊島御料地（皇室財産）といって、御苑を除いて耕作もされていない畑がほとんどで荒地のような光景であったようだ。その地に神宮の創建が決まると、「永遠の森」を目指して、大正4年から造営工事が着手された。造営が開始されると、全国（当時はサハリンから朝鮮、台湾まで）から献木が奉納され、その数は365種（現在は234種）・10万本に及んだ。植樹に当たっては将来自然林に転換していくプロセスを想定して緻密に樹種配置（高木・中木、常緑樹・落葉樹等）が設計されたようだ。植樹作業には述べ11万人の青年団の勤労奉仕があったとのこと。そして森の育成に当たっては、途中でそのための必要に応じて手が入られ、管理もなされた。造営から100年経った現在、全体として自然林の姿を成すまでになっている。平成25年に神宮100年記念として、森の総合学術調査がなされたが、その結果日本新発見の昆虫がいること、多くの絶滅危惧種がいること、都会には珍しい生物がいることなどが判明した。大都会の中で、豊かな生態系を育む自然林としての役割を立派に果たしている。因みにこの森の面積は東京ドームの15個分に相当するといふのだが。約70haほどだ。よくぞここまで頑張ってくれたという思いである。小生も数回参拝したことがあるが、その都度畏敬の念を新たにしたものだ。つい最近テレビを見ていたら、ギリシアの古典劇の舞台演出家が「来日すると必ず明治神宮を参拝する」と語っていた。何故かといふと、彼が言うには「参道に入ると、自然の中に吸い込まれ、自然に佇む神々に抱かれるような気持

ちになり、神殿の前に立つと神への感謝の念が一層深まる。“自然に神々が宿る”という信仰は（古代）ギリシアと日本は共通だ」と。とても印象に残っている。

次は栃木県の足尾銅山跡の緑化である。足尾銅山は明治期の鉱毒事件で有名である。この鉱毒事件は我が国初の公害問題である（平成期に入っても鉱毒問題は収束していない）。足尾銅山は江戸期からその産出量を誇っていたが、一時衰退し、明治期に入って間もなく古河財閥の手に渡ってから豊富な鉱脈が発見されて、その後増産の道を歩む。その過程で、坑木や燃料として周辺の山林が伐採され、硫酸を含んだ煤煙によって周辺の山林が枯れるなどの被害を受け、山が丸裸同然になってしまった。また保水力を失った山では洪水が頻繁に起こるようになり、洪水の度に渡良瀬川には鉱毒が流出して、魚が死んで漁業ができなくなり、河川流域の稲作にも被害が及んだ。鉱毒被害に対し、農民が抗議行動を起こす。一方田中正造が国会で度々取り上げ、国会議員を辞しては天皇直訴の行動を起こしたのである（明治34年）。直訴は失敗におわるが、これら一連の動きを受け、さすがに国も足尾銅山の状況を放置できないと対策を講じ始める。先ず当時の農商務省が植林（治山事業）を命じる。治山事業は一時中断するものの、今日まで継続されている。本格的には戦後30年代以降のようである。国は国有林の区域について、民有林については栃木県が対応している。これら行政の動きの外に、20年前ごろからNPO法人等の植林活動も加わっている。例えばNPO法人「足尾に緑を育てる会」が毎年春に植樹デーを設けて「体験植樹」を募って実施しているが、現在は1,500人ほどの参加者があるという。このような関係者の努力によって「松本地区」の半分ほどが緑化されたとのことである。治山の対策を講じ始めてから100年が経過している（足尾銅山は昭和48年閉山）。足尾は鉱毒のこともあって、その対応に難しさがあるが、一度失われた緑の復元がいかに大変であるかを思い知らされるケースである。それでも、緑の復元が進んでいるところではツキノワグマやニホンカモシカなどの生息も見られるようになってきているという。小生は阿武隈山地を登山した時、碎石跡や採土跡をよく見かけたが、それは銅山跡ほどではないにしても、あるべきものが失われて痛々しい姿に見えたものだ。ここにも自然の再生にはとてつもない時間がかかるのということを感じさせられる。

次はオーストラリアの首都キャンベラの話に移ろう。この話は当初の目論見のとおりことが運ばなかった例だ。当初の目論見というのは、オーストラリアはイギリス連邦から独立（1901年）し、首都をキャンベラと定め（1908年）、その建設に当たって、首都像をどうするか国際コンペを実施したのだ。その結果シカゴの提案者の「都市像」を採択した。1913年のことである。採択された「都市像」は田園都市の影響を受けたもので、都市計画区域内には自然植生の地域を組み込んでいる。既存の市街地がまだ形成されていないので、ふんだんに自然を取り込もうとしたのであろう。その都市計画は実施の段階に入ると、行政側との軋轢を生じ、修正が加えられ、遅々として進まなかった。ついに提案者は解雇される。それでも1927年国会議事堂が開設され、キャンベラは正式に首都となる。大戦後、キャンベラは「村に似ている」と酷評され、“国の顔”にふさわしい都市づくりに国を挙げて取り組むようになる。その結果、現在キャンベラは計画的に整備された都市、美しい環境が整備されている都市と評価されている。つまり、市街地を7つのクラスターで構成し、その間を緑地や丘陵で隔てることで、市街地相互の連坦を避け、緑あふれる都市を実現しているのである。「緑の空間」は他の都市に比べれば大いに取り入れられている。当初の構想通りとはいかなくともかなり実現したのである。それは大いに評価されるべきであろう。実は小生はこのキャンベラに仕事で行ったことがあることを付け加えておく。

夏の暑さ対策！

「日除けをつける」

梅雨が過ぎればいよいよ夏到来です。

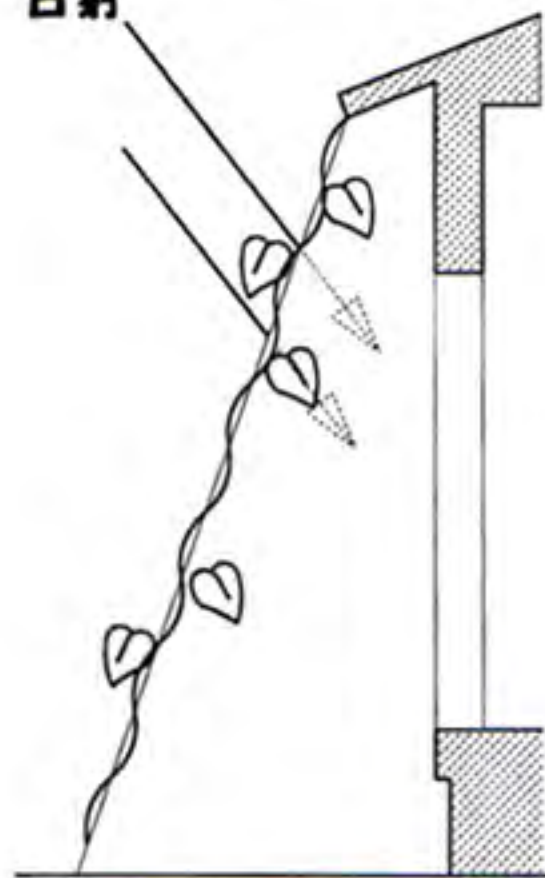
夏を迎えるための準備はお済ですか？

今回は、室外の日除け対策を少しご紹介させていただきました。

窓にはふつう、内側にカーテンやブラインドがついていますが、日除けは窓の外側につけた方が断然効果的です。

室内の日除けの場合、結局日射しの熱を内部に入れてしまうので、50%程度しか日射しの熱を遮れませんが、室外の日除けの場合、日除け表面で熱を逃すため、日射しの80%~90%程度遮ることができます。

グリーンカーテン取付
日射

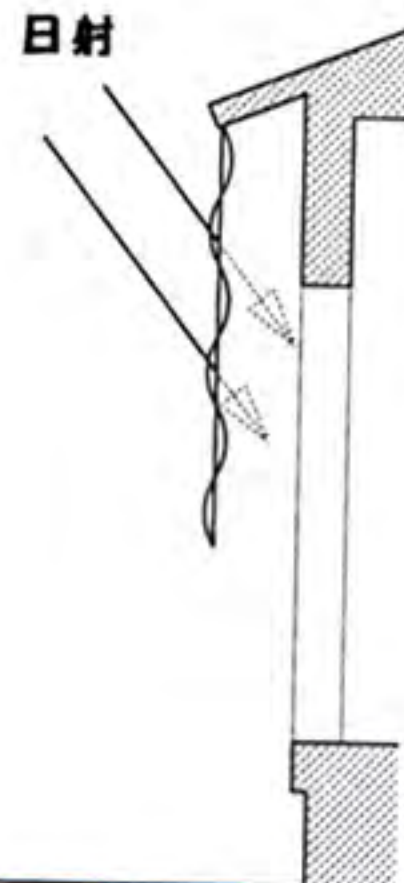


色とりどりのアサガオは見事だね。
ゴーヤもよかめてよし！
食べてよし！だね。
観葉植物もステキです。



植物の蒸発散作用で
周囲の温度が下がります。

すだれ取付

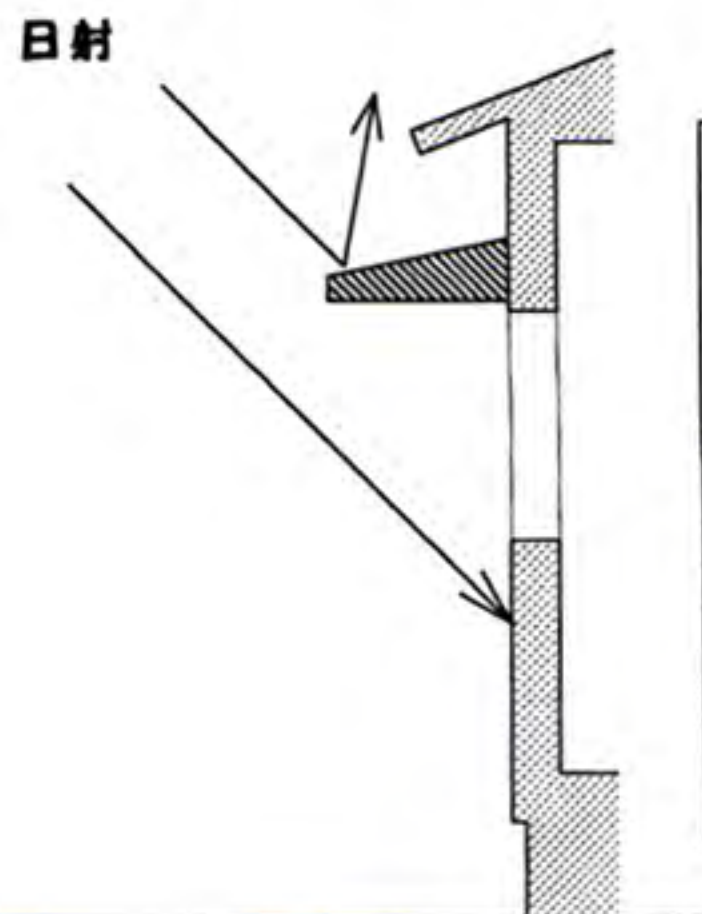


風が音があっていいですね。
なんだか、おちつきます。



すだれをよしずりに水をかけておくと
風が通ったとき、ちっと涼しい。

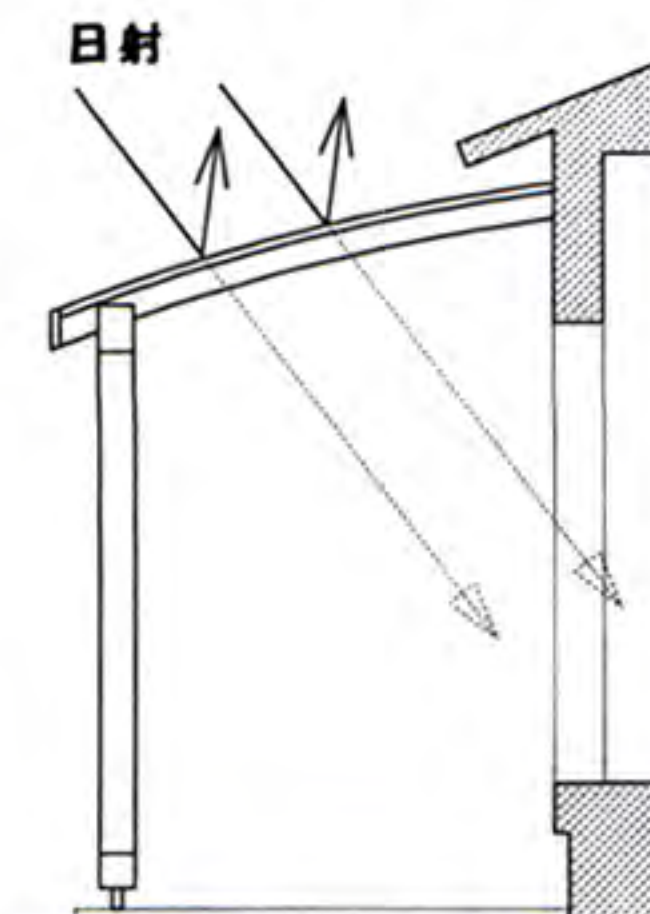
ひさし取付



真夏の直射日光はもちろんだ、
雨が雪を防いでくれる。



テラス掘付



活用の幅が広がります。

あちこちのお宅で
よく見かけますね。



<会社近況>

7月に入りました。肌寒い日が続いたかと思うと、ジリジリと暑い日になったりするので、体が疲れてしまいますね。どうか、体調管理には十分に気を付けて下さい。

先月に引き続き、本宮市の現場で、事務所の建設工事をお世話になっております。また、郡山市の現場では住宅の建設工事が始まりました。この時期は雨の日が多いので、現場担当者は毎日天気予報をチェックしているようです。

完成までまだまだかかります。気持ちを引き締めて頑張ってまいります。

(お知らせ)

7/18(月)…海の日

すみませんがお休みさせていただきます。

今月の旬♥食材

「えだまめ」

えだまめの鮮やかな黄緑色は、様々な料理に彩りを添えてくれます。たんぱく質や脂肪の含有量が、野菜の中でもトップクラス。ビタミンB1、ビタミンC、ミネラルも充実していて、鉄分は小松菜よりも多く含まれているようです。ビタミンB1は、糖質をエネルギーに換えてくれる働きがあるので、疲労回復に役立ちます。旬の美味しいえだまめ、どうぞめしあがれ。

平成28年 7月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話、0243-44-3816

<後記>

7日は七夕。牽牛(けんぎゅう)は普段牛をひいて耕し、織女は機を織って過ごしているそうで、農耕と技芸を司る星とされています。梅雨時ですが、せめてこの日だけでも晴れてほしいものです。(*_*)

事務員k